

平成29年度

事業報告

社会福祉法人 射水万葉会

平成29年度の主な事業報告

社会福祉法人射水万葉会

I 法人の理念

私たちは、法人の経営理念である「底なしの親切」と「よろこび」の実現に向け、法人30年超の歩みを継承し更なる発展を使命とし、「地域福祉への貢献」に積極的に取り組み、福祉サービスの理想の姿を追求しつつ社会福祉への貢献をめざします。

II 法人の運営方針

高齢化が急速に進む今日、老人福祉施策はめまぐるしく変容しています。「尊厳を支えるケア」と「自立」をめざして、生活の継続性を維持するための地域包括ケアシステムや、認知症高齢者に対するケアなどの施策が積極的に進められています。

多様なニーズを抱える高齢者の介護を中心とする特別養護老人ホームなどの施設・居宅系サービスは、利用者の重度化・独居化・貧困化やターミナルケアの視点から、その機能と役割が一段と重要になっています。

一方、住み慣れた生活圏域での安心で切れ目のないサービス提供で在宅での生活が継続できるように支援する、地域密着型サービスや在宅介護サービスの更なる整備が強く求められています。

このように、2025年の超高齢化社会に向けて、施設サービス、在宅サービス、保育サービスが一体となり「総合福祉拠点」の整備を積極的に進めていかなければなりません。

今、私たちは、更なる少子高齢社会に向けて法人が運営する介護サービス、保育サービスが一体となって「総合福祉拠点」としての役割を担っていかなければなりません。

そのために

- (1) 将来にわたって、質の高い福祉サービスを継続的に提供していくことができる体制を整え、職員の資質のなお一層の向上
- (2) 地域の拠点施設としての地域への貢献

(3) 在宅を支えるサポート体制の整備及び関係機関との連携・協働による
地域包括ケアシステムの構築

に取り組み、福祉サービスのプロフェッショナルとしての自覚と責任を持ち、社会や地域に貢献し、その誰もが安心して暮らすことができる明るい未来に向けて法人の機能と役割を十分に発揮して、「底なしの親切」と「よろこび」の社会の実現をめざしてまいります。

Ⅲ 法人の概要

当法人は、昭和57年9月に地域の高齢者福祉の充実を目的に特別養護老人ホームの設立運営からはじまり、特別養護老人ホーム3施設、軽費老人ホーム（ケアハウス）1施設と入居施設の整備を行なうとともに、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、認知症対応型通所介護、夜間対応型訪問介護を複合的に整備した、地域密着型「サポートセンター」3箇所を開設し、また平成19年にはコムスンからの事業承継で、在宅介護事業部「よろこび」をスタートし、在宅介護サービス事業も幅広く行なっています。

平成17年には配食サービス事業を始め、福祉用具貸与・販売事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センターの受託運営などの公益事業にも取りくみ、地域の方がたのニーズに応じた適切な介護サービスを提供できる体制とし、地域の方がたが住み慣れた地域でより長く自立した生活が送れることをめざして事業運営をおこなっています。

平成24年4月からは、天正寺サポートセンターで、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを富山県内では初めて取り組み、現在、富山市で3か所、射水市で1か所、高岡市で1か所、合せて5か所の事業所にて、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスを行っています。

平成26年6月には、東京都足立区において、当法人の特別養護老人ホームとして3か所目となる「特別養護老人ホーム足立万葉苑」を開設しました。

また4つの保育園（総定員700名）を設置運営しており、子育て支援事業や病児障害児保育などの特別保育や、放課後児童健全育成事業（学童保育）にも積極的に取り組み、地域の児童福祉の充実をめざしています。

IV 平成29年度 事業報告

法人の理念と運営方針にもとづき以下の事業を行いました。

1、標準化された専門性の高いサービスの提供

- ① 「おむつゼロ」などの科学的介護によるご入所者の自立支援や重度化防止により一層の生活の質の向上に挑む施設をめざしました。
- ② 認知症ケア、医療ケア、看取り、口腔ケア、介護予防へ積極的に取り組みました。

2、地域包括ケアシステムを支える地域密着型サービスの提供

- ① 定期巡回・随時対応型訪問介護看護をはじめ、小規模多機能型居宅介護などの地域密着型サービスや訪問介護、配食サービス事業の拡充を行いました。
- ② 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを充実して、「認知症サポーター養成講座・中央サロン・南部サロン・きららか射水100歳体操」などの地域に根差した新しいサービスに積極的に取り組みました。

3、保育サービスの充実

- ① 「子ども子育て支援新制度」が施行され制度は変わりましたが、子どもの最善の利益を考えて保育を行い、保護者にも混乱なく受け入れてもらえました。
- ② 子育て支援拠点やASUKA学級などの「地域子ども・子育て支援事業」を充実し、時代の要請と地域のニーズに応えられるように保育の充実に努めました。

4、施設、在宅、保育の連携によるサービスの複合化

- ① 法人内施設の連携を強化して、切れ目のないサービスの提供に努めました。
- ② 職員の資質の向上と多職種の協働により、サービスの質の向上に努めました。

5、人材育成と雇用の安定

- ① 魅力ある職場づくりと職員の地位とさらなる質の向上をめざし、人事考課制度、エルダー制度、全体研修会を活かして職員の意欲向上と処遇改善をはかりました。
- ② 介護職員初任者研修講座を継続し、社会福祉事業に従事する人材の育成をはかりました。

6、地域社会との連携

- ① 施設機能を地域の社会的資源として開放、地域社会の身近なパートナー、コーディネーターを目指しました。
- ② 実習生、研修生、ボランティアを積極的に受け入れ、福祉教育の推進に努めました。

7、業務管理体制の整備

- ① 法人の行動規範にもとづき、法令遵守（コンプライアンス）を強化しました。
- ② 福祉の専門家として自己研鑽に励み、職業倫理および技能の向上に努めました。
- ③ 会計の適正な執行に努め、情報公開を進めました。

射水万葉会には、30年以上にわたり培ってきた伝統があり、底力があります。

様々な職員が、様々なサービスに取り組み、互いに立てあい助け合って、これからも社会福祉への貢献をめざしてまいります。

V 各事業所の概況

各事業所においては下記の通り、概ね計画通りに順調に推移し、重大な事故や災害もなく、無事に終了したことをご報告いたします。

【法人本部】

安定した経営基盤の確立をめざし体制の強化・連携を行い、業務管理体制の充実と人材確保・適正な人員配置をめざし、社会福祉法人としての行動規範を明確化するとともに、各事業所が価値あるサービス提供ができるように支援し、法人経営の安定をはかってきました。

人事部門では、職員数は平成 29 年 4 月 1 日現在 881 名で、年間 52 名の正職員を採用しました。

研修部門では、介護職員初任者研修を開催し 12 名の受講者があり内 7 名を、研修終了後職員として採用し、職員全体研修会を高周波文化ホールで年 7 回開催・各事業所別研修を 3 回実施し、のべ 1,842 名の職員が参加。施設外研修へは 12 名が参加し、全国大会では万葉苑職員が実践報告を行うなど資質の向上に取り組みました。

財務部門では、会計監査人の導入となり定期的な訪問により法人内での取り組み、管理方法のチェックを受けより一層の透明化を図るべく、連携をとって進めて参りました。

内部管理体制整備では、規程等の整備、運用は本部・各事業所・各部署の管理者により管理を行ってきました。

今後は現状調査を実施し内部管理部門の設立を平成 30 年度内に計画しより内部での管理レベルを高めてまいります。

国からの介護職員処遇改善加算の新設基準へ対応する事で前制度より月 1 万円相当給与加算ができる体制へ申請。

今後とも法人・職員をバックアップして任務を遂行していきます。

【特別養護老人ホーム射水万葉苑】

特養長期入所利用者は、延べ 39,323 名、稼働率 97.9%、ショートステイ利用者は 1 日平均 32.3 名、デイサービスは 1 日 34.3 名です。

入所者の平均介護度は 4.2、平均年齢は 86.7 歳で介護度 4、5 の方中心の入所となり、在所期間は 3 年 1 か月と年々短くなっています。30 名の方が退所されその内 16 名の方の看取りを行いました。入所者の方の高齢化、重

度化が進んでいることが在所期間や退所者数の数字に如実に表れています。

29年度も引き続き介護力向上に取り組んでまいりましたが、介護サービスの質的向上に向けて、アセッサー資格の取得もおこないません。

また、1,012名のボランティアの方がたにご協力をいただき、延189名の実習生を受け入れました。

居宅介護支援事業所では、年間1,669件のケアプランを作成しうち介護度3～5の割合が55.3%となりました。

地域包括支援センターでは、介護予防プランを2,272件作成し、地域高齢者の運動器機能向上に向け「きららか射水100歳体操」や「認知症予防啓発事業」等、各種事業を数多く開催しました。地域包括ケアシステムへの取り組みのなかで、地域包括支援センターの役割が年々重要になってきています。

地域の中核施設として、重度で高齢な入所者が増加するなかで看取り介護対応などをしっかり行い、一方で地域包括ケアシステムの進展に向け、地域とのより密接な連携を図ってまいります。

【ケアハウス万葉】

29年度の延べ人数は804人 稼働率は95.3% 男性平均年齢80.5歳 女性平均年齢85.7歳 数字をみても解るように高齢化が進み自立して生活が出来ている人が減って来ており、また、認知機能に支障をきたす入所者も増加しており何らかのサービスを受けないと生活ができない入所者も増加傾向にあります。

29年度の新規入所者12名 退所者15名 新規で入所されてくる年齢が高いので1年以内に退所されることが多く、退所者が増加している原因の一つになっている。

29年度の退所者15名の退所者のもう一つの原因は体調不良や転倒され骨折して入院し、ケアハウスでの生活が困難になり退所されるケースが多くなっている。

また、今年度は入院先で死亡される入所者が多くありました。

介護度も高くなっており自立者33名 要支援1 1名 要支援2 5名 介護度1 13名 介護度2 8名 介護度3 1名 ケアハウスでの生活をなんとか出来ているのが現状です。

ケアハウスでの取り組みとして予防体操 脳トレ体操 音楽教室などとりいれ少しでもADL低下や認知機能低下を進行しないように今後も取り組むことや、ケアハウスでも万葉クリニック手丸先生 福祉プラザ七美 よろこび と連携を図りケアハウスで看取りも視野に入れ安心、安全に生活できるよう底なしの親切 よろこびを職員に徹底して努力をしたいと思います。

【特別養護老人ホーム二上万葉苑】

特養長期入所利用者は、延べ 27,764 名、稼働率 94.8%、ショートステイ利用者は 1 日平均 18.4 名、デイサービスは 1 日 46.3 名です。入所者の平均介護度は 3.87 と前年度より介護度は下がっていますが平均年齢は 86.1 歳で重度化が進み在所期間は 4 年と長くなり、20 名の方が退所され 6 名の方の看取りを行いました。

介護力向上をめざし、引き続き「オムツゼロ」に取り組んでまいります。

守山・二上・能町地区の高齢化率は平成 28 年 12 月末現在で 30.8%です。居宅介護支援事業所では、年間 2,416 件のケアプランを作成し、うち（要支援を除く）要介護では介護度 3～5 の割合が 27.0%です。

地域包括支援センターでは、介護予防プランを年間 1,400 件作成。

218 名のボランティアの方々にご協力をいただき、110 名の実習生を受けました。高岡市では平成 29 年度から介護予防・日常生活支援総合事業が開始になります。

これからも住み慣れた地域で安心して生活できるように専門職が力を合わせ支援していきます

【特別養護老人ホーム足立万葉苑】

特養長期入所利用者は、延べ 34,117 名、稼働率 93.5%、ショートステイ利用者は 1 日平均 8.5 名、デイサービスは 1 日 8.2 名です。入所者の平均介護度は 3.9、平均年齢は 88.8 歳で平均在所期間は 2 年 4 か月で今年度は 26 名の方が退所され 9 名の看取りを行いました。各サービスいずれも稼働率は前年度よりも向上していますが、より一層の高稼働率を維持する必要があります。

ボランティアとして 71 名の方々にご協力いただき、ただただ感謝ですが、今後は様々な企画をし、さらに地域との交流を深めて行きます。

開設して 5 年目を迎え、介護福祉士及び社会福祉士の実習生の受入体制を整備しました。今年度は一名の介護福祉士養成校からの実習を受け入れました。より一層の実習生を受入、実習生に指導すると共に、その過程を通じて専門性を向上していきます。

【ヘルパーステーション万葉（足立）】

定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスのご利用者数は、3月31日現在で9名（男性0名、女性9名）です。ご利用者の平均年齢は89.5歳、平均要介護度は3.5となっております。

平成29年度通期では、延訪問回数は11,065回、内定期訪問が10,754回、随時訪問が311回となっております。一日当たりの平均でみると、訪問回数30.4回、内定期訪問が29.5回、随時訪問が0.9回となっております。

大変残念なことではあるが、本事業は、慢性的に人材不足の状態が続いていた。特にオペレーターの退職に伴う人材の確保が非常に困難であり、3月末日で事業を休止することとなり、5月末日で廃止することとなりました。幸いに、ご利用者には他のサービス事業者を確保することができました。

本事業を運営するに当たり、関係機関の方が、ご利用者の皆様には日々支えていただき、ご協力頂いた事に感謝申し上げます。

【本町サポートセンター】

グループホームは平均介護度 2.6、平均年齢 88.4 歳の利用者が共同生活しています。待機者は7名です。グループホームに入所しても家族との関係が希薄にならないように家族との懇親会が多くもてるようにしています。

小規模多機能型居宅介護は定員が29名で、稼働率は97%とほぼ定員がいっぱいの状態でした。平均介護度は2.7です。住み慣れた自宅で一日でも長く暮らしていけるように通い、訪問、泊りを組み合わせたサービス提供をしています。

認知デイサービスは定員が12名、稼働率が76%でした。また来たくくなるようなデイサービスを目指し、職員が一丸となって取り組んでいます。

居宅介護支援事業所では116件のケアプランを作成し、その人らしく地域での生活が継続できるよう常に心がけています。

これからも地域とのつながりを大切にして、地域に根ざした施設運営に取り組んでいきたいと思えます。

【福祉プラザ七美】

グループホームは利用者延べ3,216名。6名入退所あり退所の理由として特養入所2名、長期入院2名、死亡が2名でした。ターミナルの状態の方2

名おられ 1 名の方はグループホームで看取りを行いました。要介護 3 以上の方が 71.6%を占め、最初からターミナルの方や若年層の認知症の方を受け入れ、年々重度化してきております。

小規模多機能型居宅介護

平均登録者 15.6 名、1 日平均利用 10.8 名、平均介護度は 3.3、1 年間で 6 名の新規登録、10 名の登録廃止があり理由として特養入所 3 名、グループホーム入所 1 名、長期入院 3 名、死亡 1 名、在宅サービス利用 2 名です
認知症対応型通所介護

1 日平均 5.9 名、介護予防デイサービスは 1 日平均 14.9 名
夜間対応型訪問介護

延べ 211 回の利用者、平均訪問回数は 0.6 回

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

実利用者は 305 名、定時訪問利用 18,631 回、随時利用者数は 122 名で
1 日平均訪問回数は 51.3 回

居宅介護支援事業

1,500 件の介護ケアプラン、233 件の介護予防プランを作成

訪問介護事業

予防介護が 11%、身体介護が 52%、身体・生活が 16%、生活援助が 21%
の割合で平均介護度は 2.4

色々な事業所を持つ複合施設として、その方に応じたサービスを提供できるよう、利用者本位を第一にそして地域の皆さまにも親しみやすい施設づくりを目指しております。

【天正寺サポートセンター】

小規模多機能型居宅介護事業所

実利用者 295 名、延利用者 6803 名で平均介護度 2.4

認知症対応型共同生活介護事業所

実利用者 109 名、延利用数 3303 名で平均介護度 2.9

認知症対応通所介護事業所

実利用者は 160 名、延利用数 1765 名で平均介護度は 2.7

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業

実利用者数は 277 名、定時訪問回数 22469 回、随時訪問回数 187 名

夜間対応型訪問介護事業

実利用数 224 名、随時訪問回数 33 回で平均介護度は 3.1

訪問介護事業

実利用数 95 名、定時訪問利用回数 642 回、随時訪問利用者数 122 回で平均介護度は 2.4

居宅介護支援事業所

1182 件のケアプランを作成し、予防プランは 105 件

職員研修は年間 41 名の参加です。ボランティア来訪数は 73 回です。実習生の受入は 2 名です。職員研修は個々のレベルアップのために昨年度より多くの方が参加しています。

今後も地域住民をセンターに呼び込む活動、地域に出て行く活動を継続して行い、地域福祉の拠点となるように努めていきたいと思えます。

【よろこび訪問介護事業部】

県内 5 か所の訪問介護事業では、訪問回数年間延べ 約 6 万 9 千回

要支援 1 から要介護 5 までの方や障がい者の方など、様々な方へサービスの提供をしておりますが、内訳は訪問介護利用者約 78%、障がい者自立支援利用者約 14%、総合事業利用者約 6% 自費サービス約 2% になっています。

これからも信頼される事業所を目指すために、一人ひとりのスタッフのケアの質を向上できるように研修を重ねていきたいと思えます。

【富山中央サポートセンター】

定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスのご利用者数は、3 月 31 日現在で 23 名（男性 7 名、女性 16 名）平均年齢は 79.1 歳、平均要介護度は 2.3 となっており、退院支援やターミナルの方の利用に併せ、要介護度の低い認知症の方の自立した生活への支援も多くなっています。

平成 29 年度通期では、延訪問回数は 18,820 回、そのうち随時訪問が 214 回でした。コンパクトシティを目指す富山市中心部に位置する事業所として、更なる利用促進を図り在宅生活の限界点を高め、看護・医療との連携を図り地域包括ケアシステムの中核を担える事業所と成るべく、1 人 1 人を育成してまいります。

【のむらサポートセンター】

定期巡回随時対応型訪問介護看護の利用者数は、昨年の 1.2 倍増述べ人数 315 名です。ひと月の利用平均が 26 名になっています。

約 4 割がサージュ内の利用者様で、介護度も要介護 1, 2 の利用者が 7 割弱をしめ介護度に見合ったサービス提供が今後の課題になります。

情報提の共有をはかり、介護度に見合ったサービス内容になっているか見きわめていきます。

スタッフ一人一人がレベルアップを図り、誰が訪問しても同一のサービスが提供できるように、しっかり研修等行い居宅、家族、医療関係者などとの情報共有の徹底をはかっていきます。

居宅の 3 月末の利用者数は、支援も含め計 72 名フットワークのよい、信頼される居宅介護支援事業所になるべく、努力研鑽していきます。

サージュのむらは 30 年 3 月末現在、空き室は一人部屋 4 室、二人部屋が 1 室です。利用者数は 16 名です。

生活上の相談への助言、安否の確認などを行い空き状況や、見学者への対応など、管理会社北電産業様と情報を共有し連携していきます。

【みずほサポートセンター】

定期巡回・随時対応型訪問介護看護

実利用者数は 248 名、平均介護度は 2.6

地域密着型通所介護

定員 10 名、月曜から金曜までの稼働であり、1 日平均 7.1 名、年間延べ 1,936 名の利用があり、平均介護度は 2.7 でした。

居宅介護支援事業所

年間、278 件の要介護者、22 件の要支援者のケアプランを作成し、平均介護度は 2.27 でした。

三事業所とも、併設しているサージュに入居しておられる利用者が多く、入居者は 3 月 31 日時点で 16 名でした。今後は「地域性」と「共同性」を意識し、より地域へ貢献できるよう努めてまいります。

【配食サービス事業】

地域の高齢者が1日でもながく居宅で生活できる様、射水万葉会では、射水万葉苑、ケアハウス万葉、二上万葉苑、本町サポートセンター（平成29年10月から射水万葉苑に統合）、天正寺サポートセンターの各施設で配食サービスを行っています。朝食948食、昼食24,910食、夕食44,887食 合計で70,745食の提供を行いました。高齢者が適切に食事をとることは生活の基であり、居宅で生活をする為には必要不可欠な要素と考えています。また食事の手渡しを徹底することで、高齢者の居宅での生活を見守りする機能を併せ持ち、地域包括ケアシステムの一つとしてなくてはならないサービスとも考えています。

今後も、法人各施設の厨房設備を配食サービスに活用し、地域の高齢者の自立に、1日でもながく居宅で生活できることに貢献していきます。

【福祉用具貸与事業】

福祉用具の貸与においては延3,729名の方にご利用いただき、また販売においても延270名の方にご利用いただきました。

利用者の方の心身の状況、またその置かれている環境などを考慮し、1人ひとりに最適な福祉用具の貸与、販売を心掛け行ってまいりました。

今後も、利用者の方が可能な限り居宅で、その能力に応じた日常生活を営むことができる様支援してまいります。

【保育所事業】

保育園全体では、30年3月末現在で入所児童総数697名のべ8,155名の保育を行いました。また、保育士処遇改善から平成29年度からキャリアパス研修受講を条件として、処遇改善Ⅱが加わり徐々に給与に反映されてきております。

しかし、慢性的な保育士不足に加えて、産休や育休取得の保育士も次々出てきており、大変苦慮しております。

施設設備に関しては、主なところで、厨房の器具や給湯器の修繕また、遊具の修理やフェンス取り換え等がありました。

そして、幼保連携型認定こども園海老江こども園は、30年2月にようやく1号認定一人が入所しました。これから幼保連携型認定こども園として、運営上も本格的に稼働していくものと思っております。

【大島つばさ保育園】

3月現在 174名の園児数で、年間延べ2,052名の保育を行いました。
体調不良児対応型保育では330名の保育と障害児保育で2名の園児を受け入れました。

保育所保育指針の改訂を前に、園内研修では新指針に基づいた視点で子どもを捉える研修も取り入れ、職員のスキルアップを図りました。

保護者の要望も多様化するなか、子どもにとっての最善の利益を第一に考え、保護者の方とも連携をとりながら、理念に沿った保育を進められるよう努めてまいります。

【新湊中部保育園】

3月現在 124名の園児数で、年間延べ1,450名の保育を行いました。

新湊地区は少子化に伴い、ここ数年園児数の減少が続いており、昨年度か見ると10名程の減となり定員変更の時期に来ていると思われま

す。また、今年の大雪により道路側のフェンスが傾き危険な状況にまではならなかったとはいえ、安全面の点検の重要性を再確認しました。安心、安全を基本とし、これまで積み重ねてきた保育は勿論、施設環境にも十分配慮し、これからも保護者や、地域から信頼される保育園としてさらに努力をしていきたいと思

【海老江保育園】

3月現在 140名の園児数で、年間延べ1,627名の乳幼児を保育・教育しました。今年度は幼保連携型認定こども園となり、幼稚園部のお子さんも受け入れる体制を整えました。年度当初の利用はありませんでしたが、2月より利用があり、特に混乱もなく保育することができました。

保育参加や行事などを通して子どもの心に寄り添った保育とは、環境を通して行う保育とは何かを考えながら、保護者や地域の方からの理解と信頼を得るよう努めてまいりました。

しかし、制度の理解、保育の内容などについてはまだまだ勉強が必要です。今後もより一層研鑽を積み、資質の向上に努めたいと思

【射水おおぞら保育園】

入所加算 256 名のべ 3,025 名の乳幼児を保育しました。

子育て支援センターにはのべ 4,428 名 1 日平均 20 人前後の地域の皆さんが利用されました。また、一時預かり保育では、のべ 881 名 1 日平均 4 名の利用がありました。

そして、病児保育室については、市内各地から利用がされるようになってきました。しかし、狭い保育室や施設設備の面で十分ではないこと等から、新たに別棟に病児保育室を設置し、しっかり受け入れるようにしていきます。平成 30 年 8 月頃開設予定です。

【ASUKA 学級】

入級登録児童数は 108 名、開級日数は 290 日でした。特に 1 日開級日や夏休み期間等、長い時間を楽しく子ども達が過ごせるよう工夫してきました。

また、支援員においては、平成 27 年度より実施されている「放課後児童支援員認定資格研修会」を平成 29 年度には 1 名受講し資格を取得、「児童厚生員等研修会」を 2 名受講し、児童厚生 2 級指導員の認定を取得しました。今後も指導員の資質向上を図り、より良い学級に努めます。

【万葉クリニック】

6 月より専従の医師が就任し、従来の週 3 日の変則診療から月曜日～土曜日までの診療体制が確立され、より地域に開かれた医療機関としてサービスの提供を実施しました。これにより、延べ 2,857 名の診療を行いました。他にも自由診療として多くの方へのインフルエンザ予防注射や職員の受け入れ時検診も 100%実施しました。これからは、医療圏内のより多くの方に知っていただき、又ご利用いただけるように広告も並行して行い、経営の安定に努めていきます。

